

# 宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成25年1月～3月期

## 目 次

1. 県下産業全体の景況 .....	2
(1) 主要景況項目のあらまし .....	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし .....	3
(3) 今後の見通しについて .....	4
2. 県下産業別の景況 .....	5
(1) 製造業の動向 .....	5
(2) 建設業の動向 .....	8
(3) 小売業の動向 .....	11
(4) サービス業の動向 .....	14

平成25年4月

宮城県商工会連合会

# 中小企業景況調査報告書

平成 25 年 1 月～3 月期

## [調査要領]

### 1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区  
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、利府松島、加美、  
遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 149 企業

### 2. 調査対象期間

平成 25 年 1 月～3 月期を対象として、調査時点は平成 25 年 3 月 1 日とした。

### 3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

### 4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	33
建 設 業	24
小 売 業	43
サービス業	49
合 計	149

### 5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

# 1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 25 年 1 月～3 月期)の調査において、産業全体の業況 D I は、前期より 6.3 ポイント低下し△39.1 (前期△32.8) となり、売上額(完成工事額) D I や採算 D I においても、前期からの低下幅が全国よりも大きくなるなど、本県の景況感には脆弱さが感じられた。

平成 23 年 7 月～9 月期以来、震災からの復旧事業の増勢などに伴い高水準に推移してきた建設業の業況感も鈍化し、他の産業については総じて動きが弱めの水準にあり、全国的には、景気の先行指数となる株価の上昇などが注目されているが、本県経済への影響については不透明な状況である。

業況 D I を産業別にみると、製造業は△43.7 (前期△29.4) と 14.3 ポイント、建設業は 4.1 (前期 16.7) と 12.6 ポイント、小売業は△55.9 (前期△44.1) と 11.8 ポイントとそれぞれ悪化した。そしてサービス業のみ△42.9 (前期△49.9) と 7.0 ポイント改善した。

## (1) 主要景況項目のあらまし

### ① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額) D I は平成 24 年 4 月～6 月期をピークとして各産業いずれも下降傾向にあり、製造業においては△39.4 (前期△32.4) で 7.0 ポイント、建設業は 8.4 (前期 20.8) で 12.4 ポイント、小売業は△65.0 (前期△51.2) 13.8 ポイント、サービス業は△40.8 (前期△38.8) で 2.0 ポイントと全ての産業が悪化した。

### ② 採算の状況

採算 D I についても、製造業において△45.4 (前期△41.1) で、4.3 ポイント、建設業が 0.0 (前期 16.7) で 16.7 ポイント、小売業は△53.5 (前期△39.6) で 13.9 ポイント、サービス業は△44.9 (前期△40.7) で 4.2 ポイントと全ての産業が悪化した。

### ③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、小売業は 9.3%と低調ながら前期よりも実施比率を 2.2 ポイント伸ばし、他の産業は前期と比較し製造業が 21.2%で 8.2 ポイント、建設業は 12.5%で 20.8 ポイント、サービス業は 12.2%で 4.1 ポイントそれぞれ減少した。

## (2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

### ① 売上額（完成工事額）

今期の売上額（完成工事額）D Iは、被災後2年が経過し、公共インフラの本格復旧や、住宅再建ニーズを抱える宮城の建設業はD Iを大きく縮小させながらも依然プラス値を維持し、全国・東北を上回っているが、コンビニエンスストアの進出など競争環境が厳しい小売業や、製造業、サービス業においては宮城のD Iが全国、東北を下回った。

表一1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 27.1	△ 31.7	△ 23.9	△ 34.0	△ 32.4	△ 39.4
建 設 業	△ 13.1	△ 13.5	6.0	5.3	20.8	8.4
小 売 業	△ 44.2	△ 45.2	△ 42.0	△ 49.1	△ 51.2	△ 65.0
サービス業	△ 33.5	△ 32.3	△ 30.9	△ 30.5	△ 38.8	△ 40.8

### ② 採 算

採算D Iも売上額（完成工事額）D I同様、建設業の採算D Iが0.0となったものの依然として一定の水準を保っており、全国・東北を上回っているが、その他の産業については製造業、小売業、サービス業ともに宮城のD Iが全国、東北を下回った。

表一2 採算の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 29.5	△ 34.3	△ 27.0	△ 35.8	△ 41.1	△ 45.4
建 設 業	△ 26.2	△ 24.9	△ 6.0	△ 17.7	16.7	0.0
小 売 業	△ 41.6	△ 44.0	△ 40.1	△ 45.2	△ 39.6	△ 53.5
サービス業	△ 33.9	△ 34.1	△ 32.6	△ 35.7	△ 40.7	△ 44.9

### (3) 今後の見通しについて

#### ① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額（完成工事額）来期見通しD I（平成 25 年 4 月～6 月期）については製造業、小売業については 10 ポイントを超える悪化が予想され、建設業は若干の悪化、サービス業は横ばいの見通しとなった。

採算来期見通しD Iについてはサービス業を除き全ての産業で悪化するとの見通しとなった。

#### ② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上額（完成工事額）来期見通しD Iにおいて、全国は全ての産業において明るさが見え改善の見通しとなったが、宮城の製造業、小売業は悪化が見通され、採算来期見通しD Iにおいても全国は横ばい、宮城はサービス業を除き悪化すると見通された。

※見通しD Iは前年同期と比較した予想値である。

表－3 売上額（完成工事額）の状況 (来期見通・D I)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 27.0	△ 20.4	△ 15.1	△ 27.2
建 設 業	△ 23.3	△ 14.8	△ 4.2	△ 8.4
小 売 業	△ 44.5	△ 41.8	△ 39.5	△ 52.3
サービス業	△ 34.2	△ 29.5	△ 32.7	△ 32.6

表－4 採算の状況 (来期見通・D I)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 28.3	△ 27.8	△ 29.4	△ 36.4
建 設 業	△ 27.8	△ 22.0	0.0	△ 4.2
小 売 業	△ 38.9	△ 40.9	△ 37.3	△ 46.5
サービス業	△ 32.9	△ 30.6	△ 44.9	△ 42.8

## 2. 県下産業別の景況

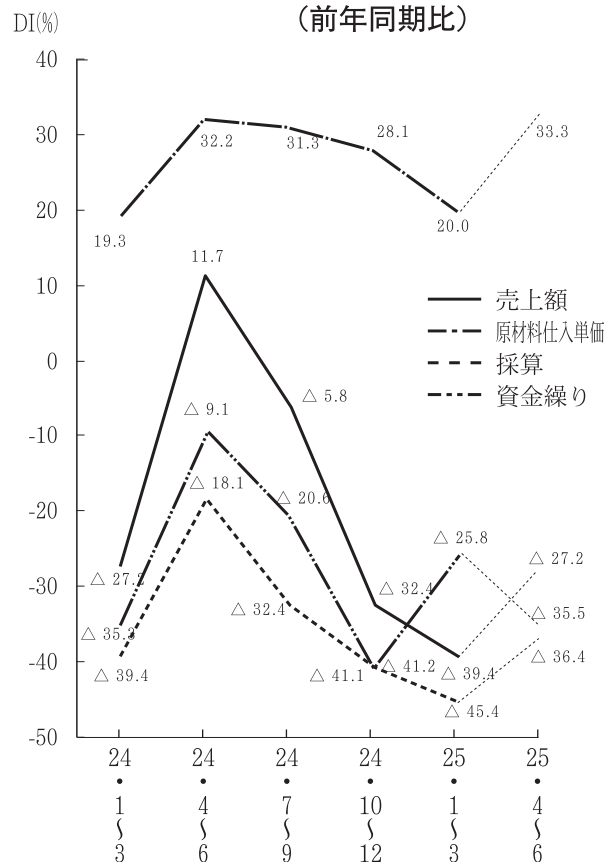
### (1) 製造業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△39.4（前期△32.4）となり7.0ポイント悪化し、採算D Iも今期△45.4（前期△41.1）で4.3ポイント悪化、資金繰りD Iは今期△25.8（前期△41.2）で15.4ポイント改善した。

原材料仕入単価は20.0（前期28.1）と8.1ポイント改善はしているものの、原材料の高止まりが続いている。

図1-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



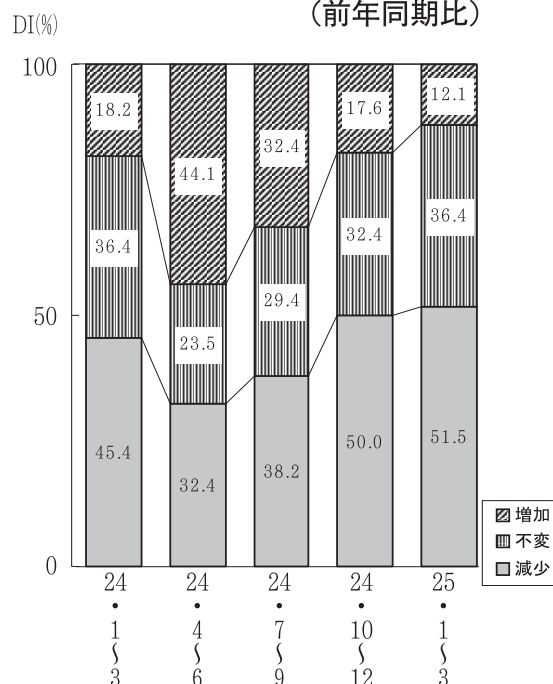
#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上(加工)額

「上昇・好転」と回答した企業は、全体の12.1%（前期17.6%）と5.5ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は51.5%（前期50.0%）と1.5ポイント増加した。

結果として売上（加工）額D Iは△39.4（前期△32.4）となり前期比7.0ポイント悪化した。

図1-2 売上（加工）額の状況  
(前年同期比)

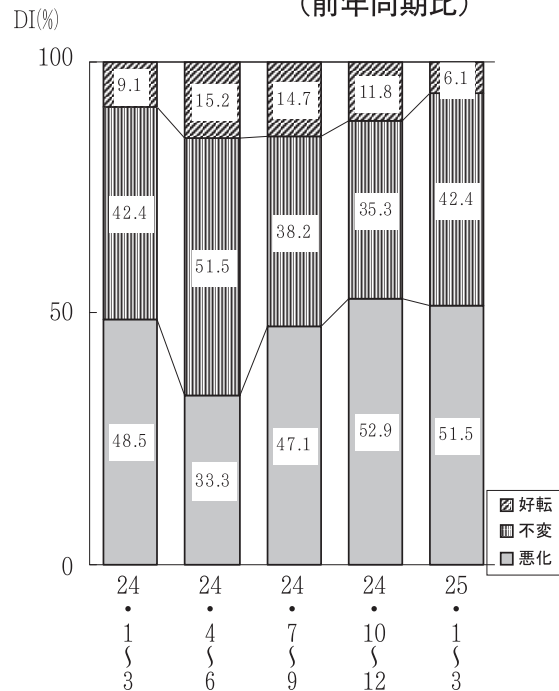


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の6.1%(前期 11.8%)で5.7ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は51.5%(前期 52.9%)で1.4ポイント減少した。

その結果、採算DIは△45.4(前期△41.1)となり前期比4.3ポイント悪化した。

図1-3 採算の状況  
(前年同期比)



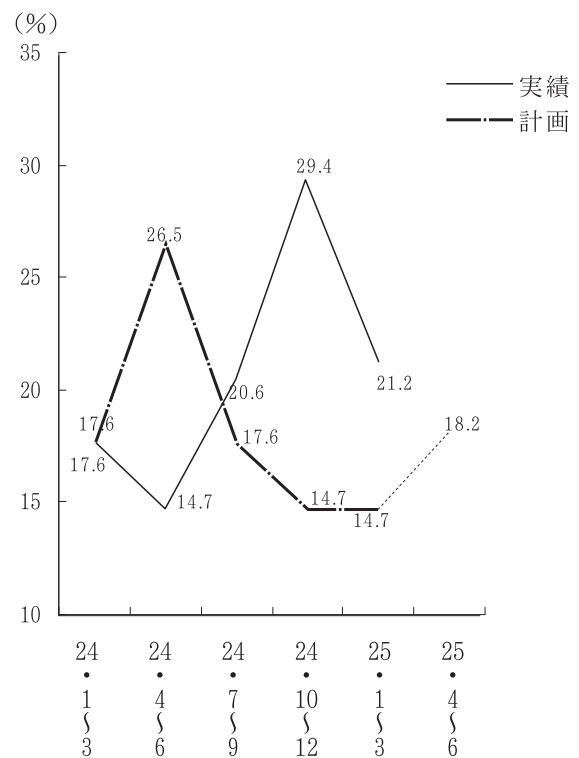
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の21.2%(前期 29.4%)で8.2ポイント減少した。

その設備内容は土地、生産設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の18.2%で、その設備内容は工場建物、生産設備、付帯設備、OA機器、その他となっている。

図1-4 設備投資の状況

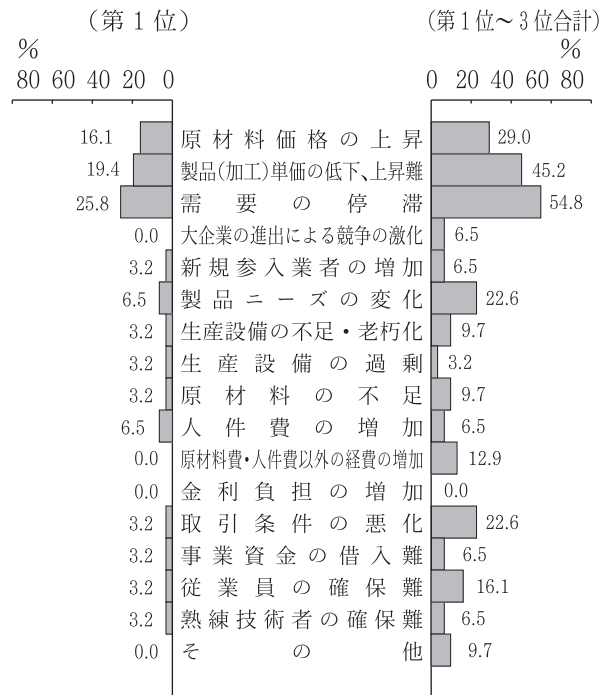


### (d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」(25.8%)、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」(19.4%)、「原材料価格の上昇」(16.1%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(54.8%(複数回答以下同じ))「製品(加工)単価の低下、上昇難」(45.2%)、次いで「原材料価格の上昇」(29.0%)、そして「製品ニーズの変化」「取引条件の悪化」が22.6%で続いた。

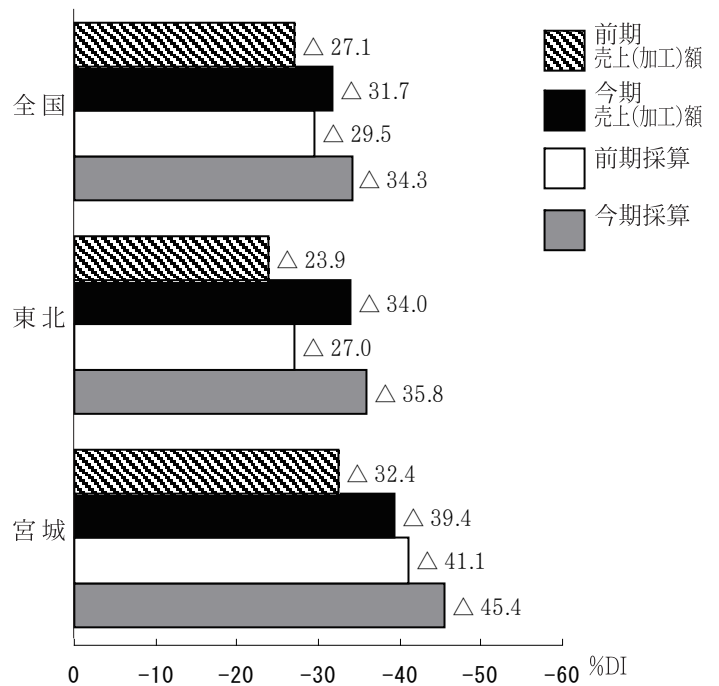
図1-5 経営上の問題点



### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

株価の上昇などデフレ脱却への期待感が高まっているが、全国、東北、宮城ともに売上(加工)額DI、採算DIは悪化した。本会回答事業者からは「円安、株価の上昇により業績回復が期待される一方、輸入価格上昇により、原材料の価格が上昇している。大企業も設備投資には慎重なようで3月までは厳しい環境が続くようだ」との意見が寄せられた。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較





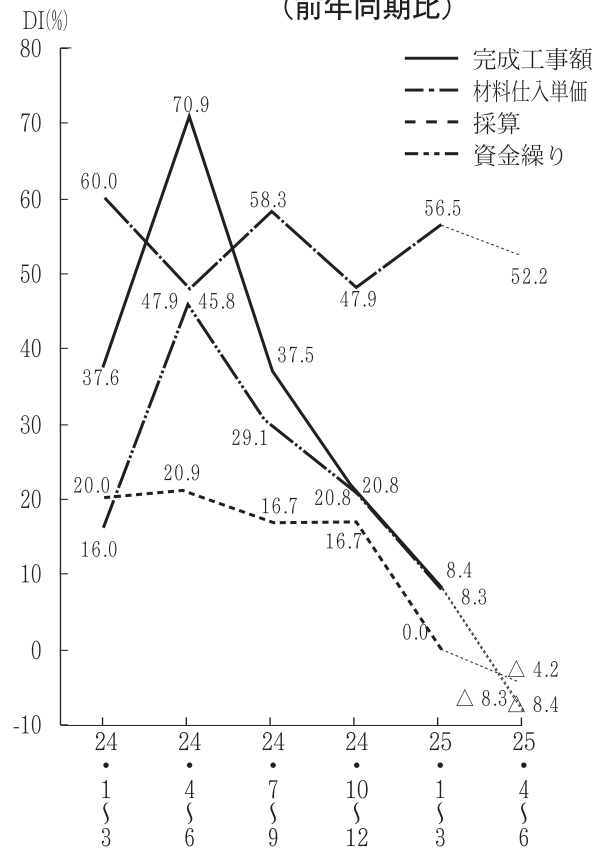
## (2) 建設業の動向

### ① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは 8.4（前期 20.8）で 12.4 ポイント悪化し、採算D Iも 0.0（前期 16.7）で 16.7 ポイント悪化、資金繰りD Iも 8.3（前期 20.8）と 12.5 ポイント悪化した。

懸念されている材料仕入単価D Iも 56.5（前期 47.9）で 8.6 ポイント悪化し、全ての項目が悪化しており、復興需要による好況感は先行き不透明感が出始めている。

図 2 - 1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



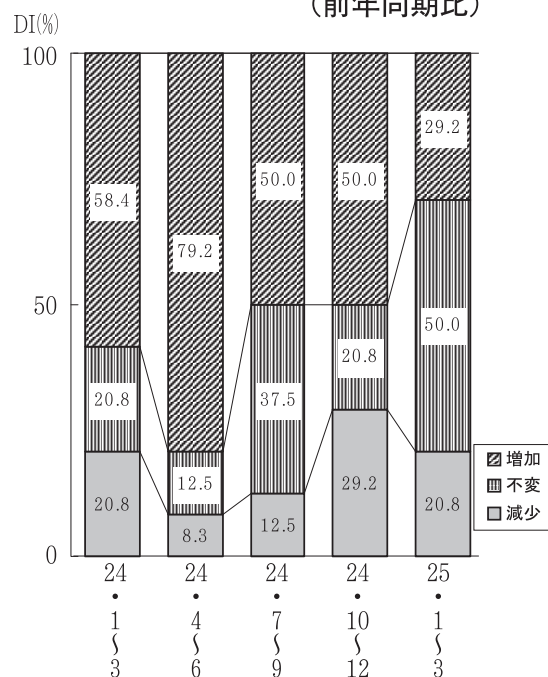
### ② 主要景況項目別状況

#### (a) 完成工事（請負工事）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の 29.2%（前期 50.0%）で 20.8 ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は 20.8%（前期 29.2%）と 8.4 ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは 8.4（前期 20.8）と 12.4 ポイント悪化した。

図 2 - 2 完成工事額の状況  
(前年同期比)

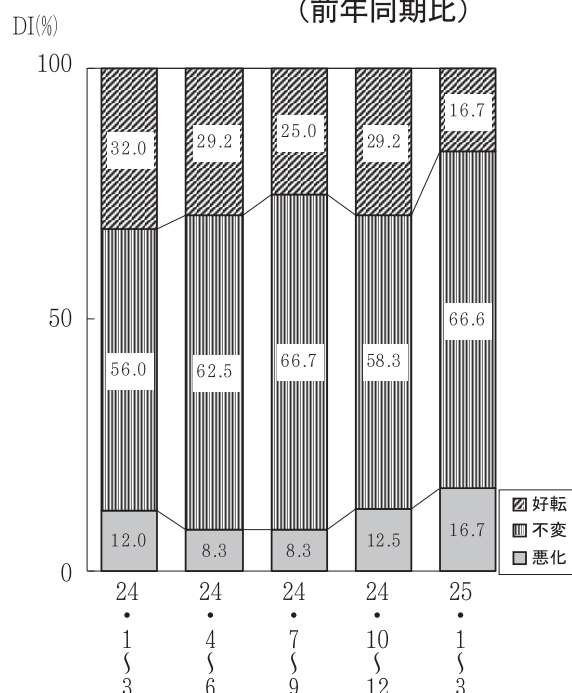


### (b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の16.7%（前期29.2%）であり12.5ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は全体の16.7%（前期12.5%）で4.2ポイント増加した。

その結果、採算DIは0.0（前期16.7）と16.7ポイント悪化した。

図2-3 採算の状況  
(前年同期比)



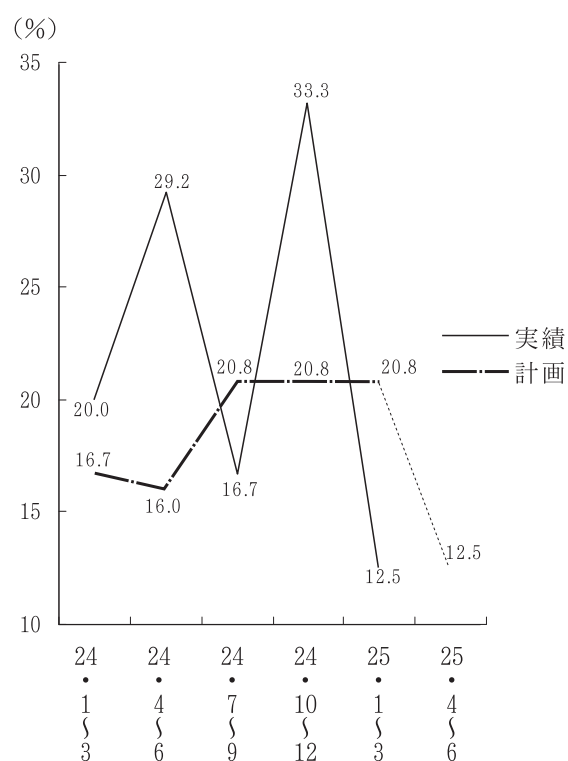
### (c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の12.5%（前期33.3%）で20.8ポイント減少した。

その設備内容は建設機械、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の16.7%で、その設備内容は土地、建物、建設機械、車両・運搬具、福利厚生施設となっている。

図2-4 設備投資の状況

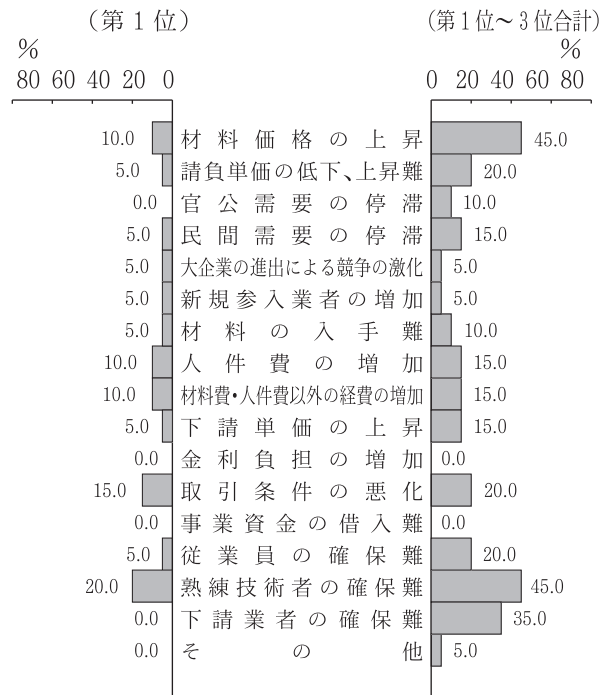


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「熟練技術者の確保難」(20.0%)、次いで「取引条件の悪化」(15.0%)、そして「材料価格の上昇」、「人件費の増加」と「材料費・人件費以外の経費の増加」が10%とそれぞれ同率で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「熟練労働者の確保難」と「材料価格の上昇」が同率の45.0%(複数回答以下同じ)となり、次いで「下請業者の確保難」が35.0%と続いた。

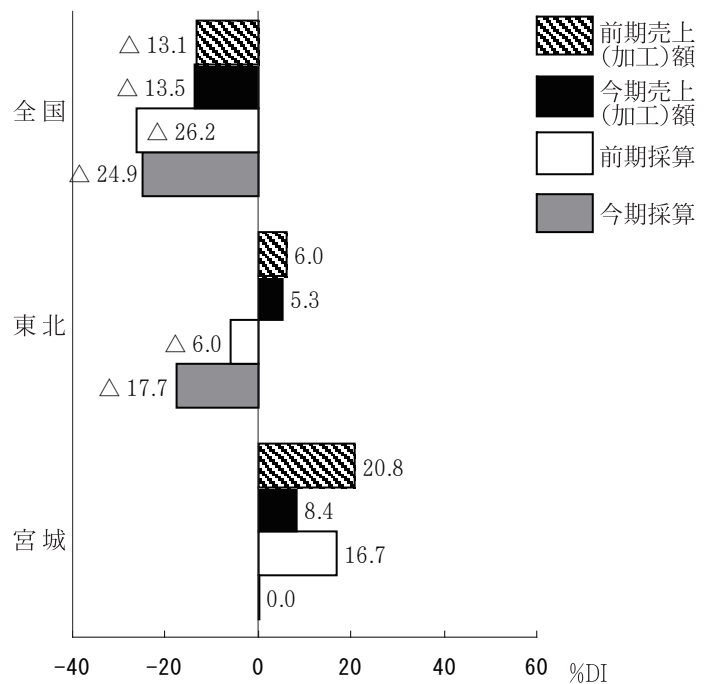
図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

宮城は依然として復興需要が続き売上DI・採算DIともに全国、東北を上回っているが、震災後高水準に推移してきた宮城の完成工事(請負工事)額にも陰りが見られ、本県回答事業所からは「震災特需といわれているが、受注も落ち着いてきており先行きが不安である」、「徐々に請負が減少しつつある。そのため外注を頼まず、従業員のみでの仕事が多くなった」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



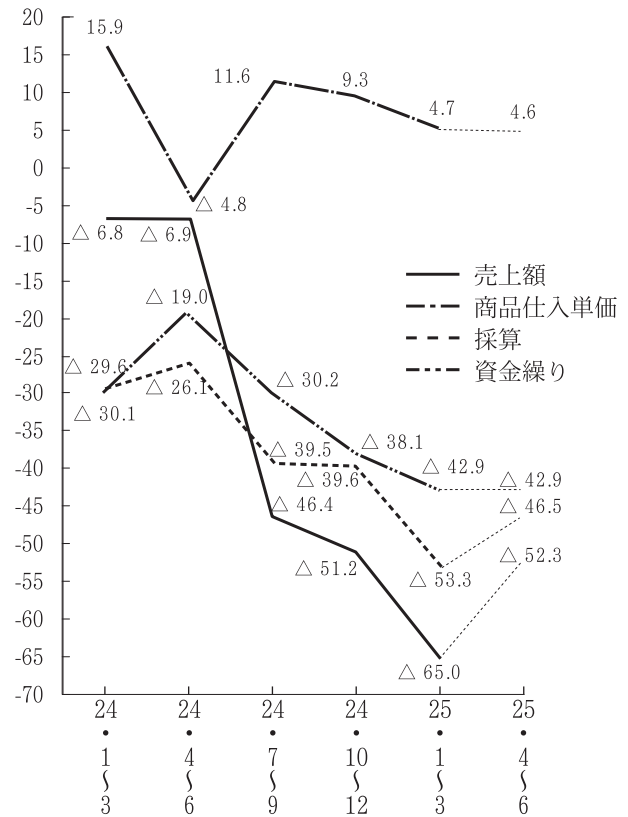
### (3) 小売業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは△65.0（前期△51.2）と13.8ポイント悪化し、採算D Iも△53.5（前期△39.6）で13.9ポイント、資金繰りD Iは△42.9（前期△38.1）と4.8ポイント悪化した。

商品仕入単価D Iは4.7（前期9.3）となり4.6ポイントとわずかながら好転した。

図3-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



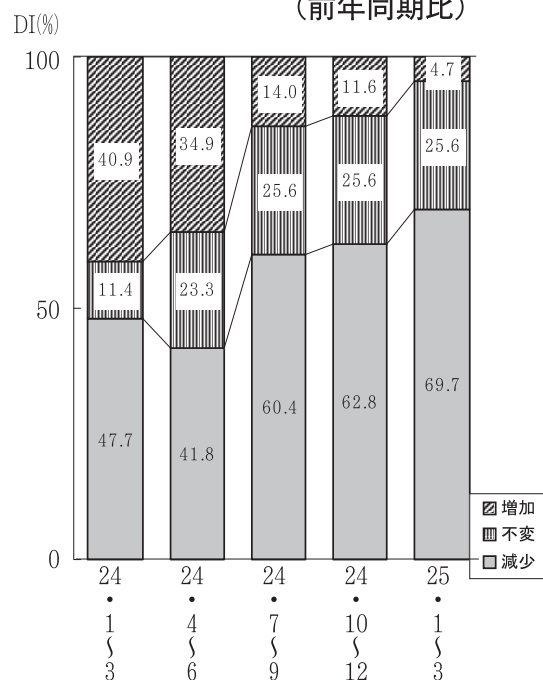
#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の4.7%（前期11.6%）と6.9ポイント減少し、「減少・悪化」の回答は全体の69.7%（前期62.8%）と6.9ポイント増加した。

その結果、売上額D Iは△65.0（前期△51.2）と前期比13.8ポイント悪化した。

図3-2 売上額の状況  
(前年同期比)

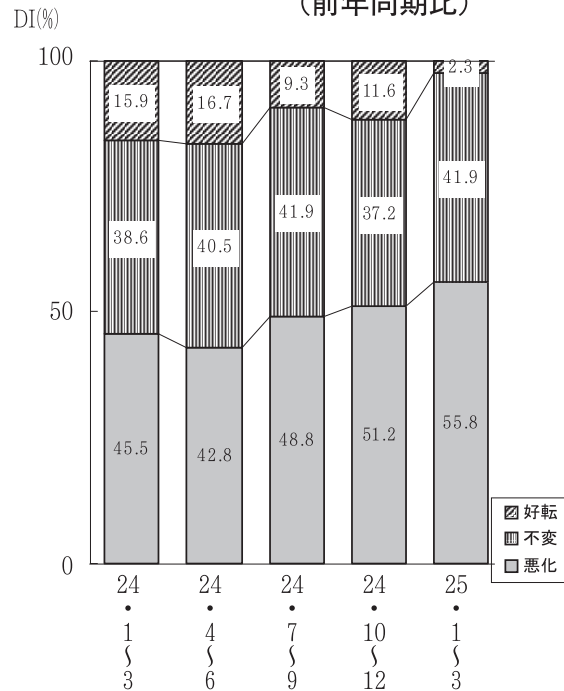


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の2.3%（前期11.6%）と9.3ポイント減少し、「悪化・低下」の回答も全体の55.8%（前期51.2%）で4.6ポイント増加した。

その結果、採算DIは、△53.5（前期△39.6）となり、前期比13.9ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況  
(前年同期比)



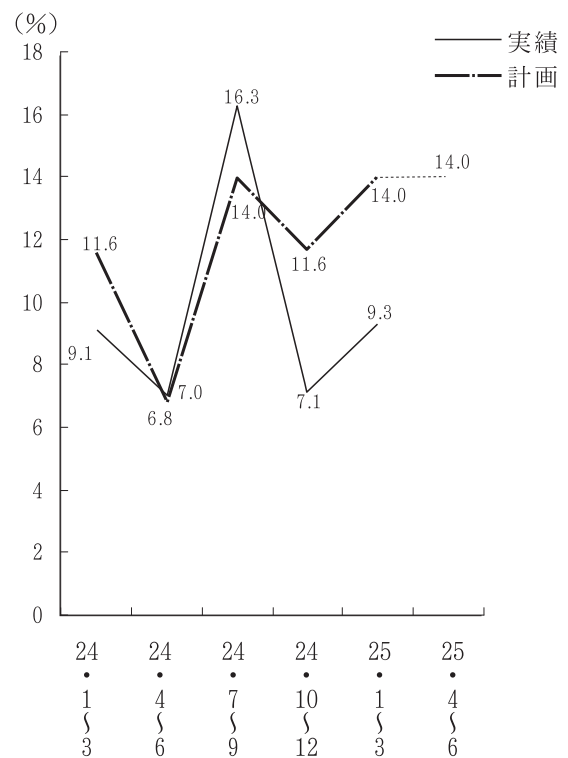
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の9.3%（前期7.1%）で、2.2ポイント増加した。

その設備内容は店舗、販売設備、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業は14.0%で、その内容は車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他を想定している。

図3-4 設備投資の状況

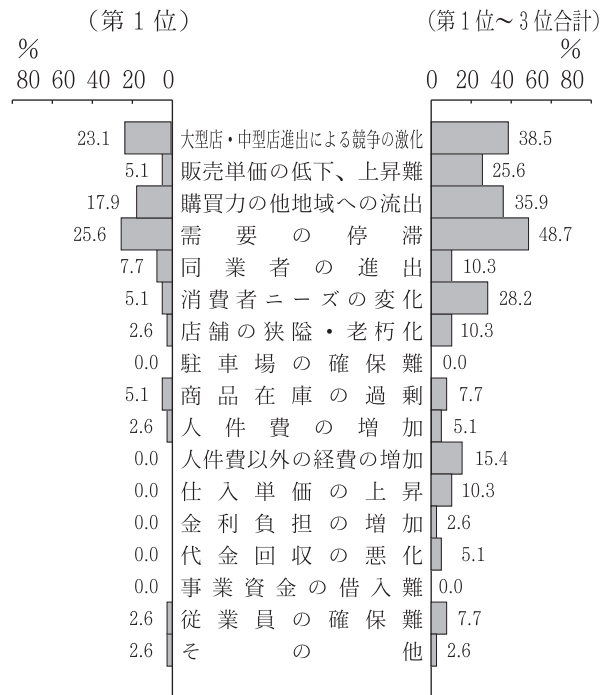


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(25.6%)、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」(23.1%)、「購買力の他地域への流出」(17.9%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(48.7%(複数回答以下同じ))次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」(38.5%)次いで「購買力の他地域への流出」(35.9%)、「消費者ニーズの変化」(28.2%)と続いた。

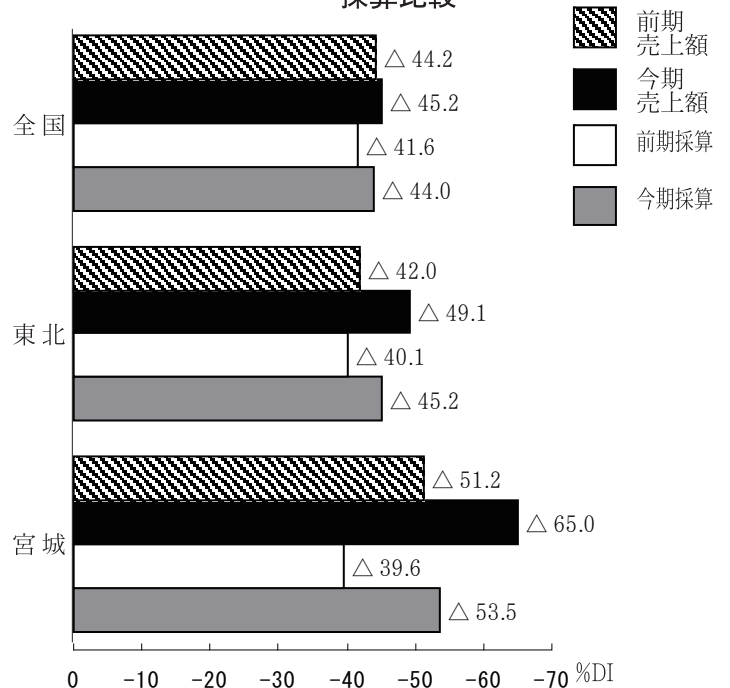
図3-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

小売業は消費マインドの低迷により全国的に厳しい環境下にある中、前期の宮城は採算DIにおいて全国・東北を若干上回ったが、今期は売上額DI、採算DIともに下回った。本県回答事業所から「今期の売上額、客数が減少し、数字が落ち込んでいる。外商も、店舗販売もどちらも悪い業況である」(酒販店)「店舗オープンによって、立地条件が良くなり、新しいお客様が毎日入るようになった」(化粧品小売)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較

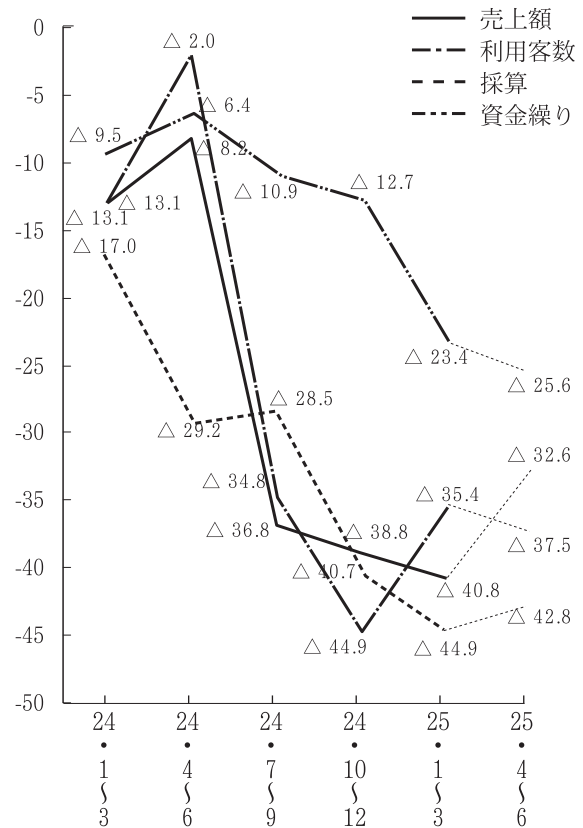


## (4) サービス業の動向

### ①主要景況項目から見たあらし

利用客数D Iは△35.4(前期△44.9)で9.5ポイント改善したが、その他の項目は売上(収入)額D Iが△40.8(前期△38.8)で2.0ポイント、採算D Iが△44.9(前期△40.7)4.2ポイント、資金繰りD Iも△23.4(前期△12.7)と10.7ポイントとそれぞれ悪化した。

図4-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



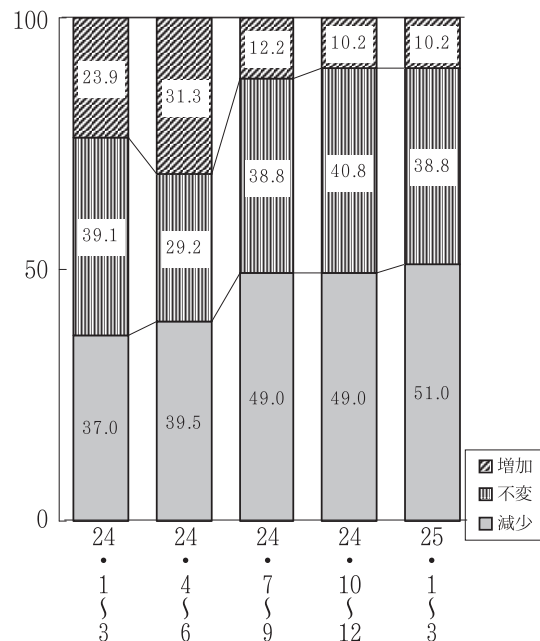
### ② 主要景況項目別状況

#### (a) 売上(収入)額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の10.2%で前期同様であり、「減少・悪化」の回答は51.0%(前期49.0%)であり2.0ポイント増加した。

その結果、売上(収入)額D Iは△40.8%(前期△38.8%)で前期比2.0ポイント悪化した。

図4-2 売上(収入)額の状況  
(前年同期比)

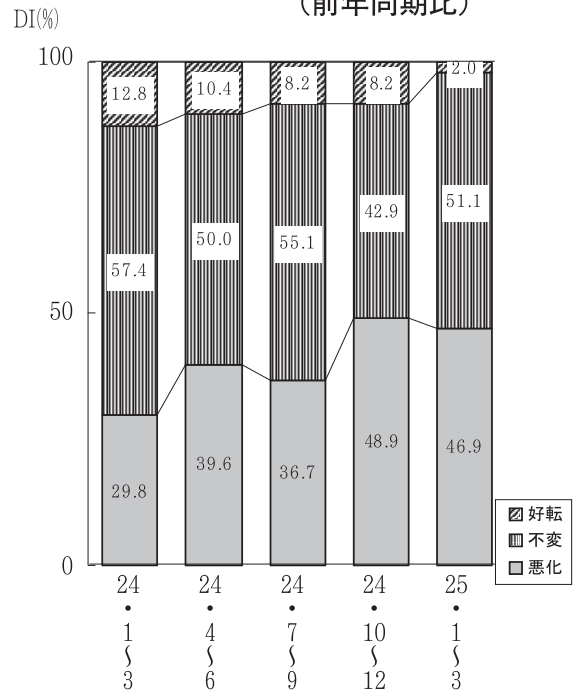


(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は全体の2.0%（前期 8.2%）で前期比 6.2 ポイント減少した。「低下・悪化」と回答した企業は46.9%（前期 48.9%）と 2.0 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は△44.9（前期△40.7）となり、前期比 4.2 ポイント悪化した。

図 4 - 3 採算の状況  
(前年同期比)



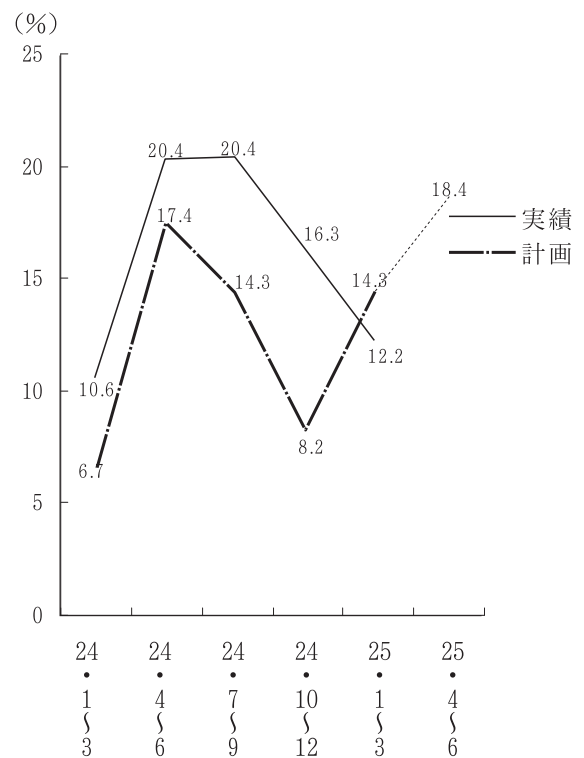
(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の12.2%（前期 16.3%）で 4.1 ポイント減少した。

その設備内容は土地、建物、サービス、付帯施設、機器、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、18.4%であり、その内容は土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、その他となっている。

図 4 - 4 設備投資の状況



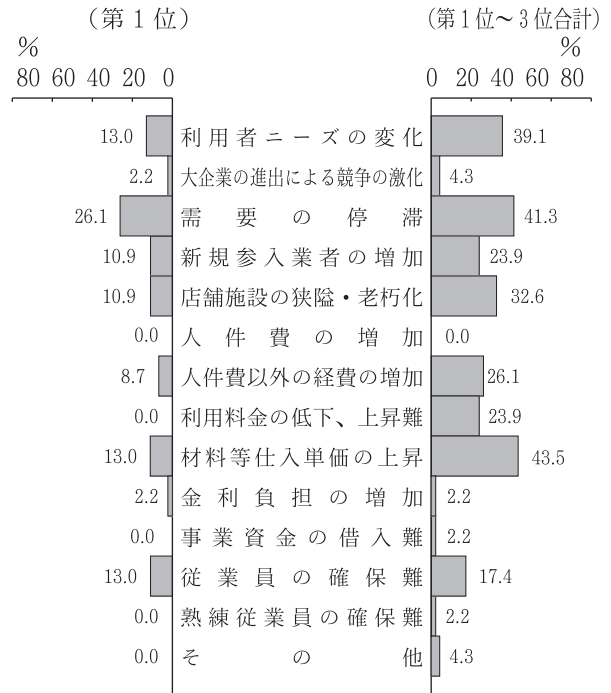


### (d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(26.1%)  
次いで「材料等仕入単価の上昇」、「利用者  
ニーズの変化」、「従業員の確保難」がそれ  
ぞれ13.0%と同率で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料  
等仕入単価の上昇」(43.5%(複数回答以下  
同じ))、「需要の停滞」(41.3%)次いで、「利  
用者ニーズの変化」(39.1%)、「店舗施設の  
狭隘・老朽化」(32.6%)と続いた。

図4-5 経営上の問題点



### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

サービス業は、全国、東北の今期売上高D Iが前期売上高D Iを若干改善したが宮城は売上高D I、採算D Iともに若干悪化した。本県回答事業所からは「石油価格の高騰により原材料費が上昇しており、対応に苦慮している」(理容業)、「野菜等の仕入単価が上昇しており、採算が合わなくなるのではないかと懸念している」(中華料理店)、「震災からもうすぐ2年、サービスで下げた料金と営業時間の見直しをするべきか思案中である」(理容店)等のコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較

